

厚生労働科学研究費補助金
こころの健康科学研究事業

自殺未遂者および自殺者遺族等へのケア
に関する研究

平成 19 年度 総括・分担研究報告書

主任研究者 伊藤 弘人

平成 20 年(2008 年)3 月

目 次

1. 総括研究報告書

自殺未遂者および自殺者遺族等へのケアに関する研究…………… 1

伊藤 弘人

2. 分担研究報告

1) 自殺者遺族等へのケアに関する研究…………… 17

川野 健治, 張 賢徳, 伊藤 弘人, 川島 大輔, 黒澤 美枝, 清水 新二,
渡邊 直樹

〈分担研究協力報告〉

自殺者親族等のためのケアガイドライン指針の作成…………… 23

川野 健治, 川島 大輔, 黒澤 美枝, 張 賢徳

自死遺族当事者の悲嘆およびケアへのニーズに関する調査研究…………… 37

川野 健治, 川島 大輔, 小山 達也, 伊藤 弘人

研修プログラム・ツールの開発に関する研究…………… 47

川野 健治, 伊藤 弘人, 稲垣 正俊, 川島 大輔, 黒澤 美枝, 小山 達也,
清水 新二, 田村 毅, 平山 正実, 松本 俊彦, 渡邊 直樹

2) 希死念慮者へのメッセージに関する研究…………… 151

川野 健治, 川島 大輔

3) 自殺未遂者のケアに関する研究： 自殺未遂者ケアのためのガイドライン指 針の作成.....	157
河西 千秋, 佐藤 玲子, 山田 朋樹, 松本 俊彦	
4) 救命救急センターにおける自殺対策支援の可能性に関する予備的研究.....	187
有賀 徹, 三宅 康史, 守村 洋, 中村 恵子, 河西 千秋, 山田 朋樹, 伊 藤 弘人	
〈分担研究協力報告〉	
救急看護における自殺対策支援に関する研究.....	191
守村 洋, 中村 恵子, 有賀 徹, 大高 明子, 吉田 葉子, 安田 美佳, 竹 内ひとみ, 西 典子, 山田 朋樹, 河西 千秋, 三宅 康史, 伊藤 弘人	
5) 身体疾患と自殺および精神疾患に関する予備的検討.....	231
伊藤 弘人, 明智 龍男, 伊藤 敬雄, 河西 千秋, 小林 未果, 佐伯 俊成, 佐藤 洋, 松島 英介	

1. 総括研究報告書

自殺未遂者および自殺者遺族等へのケアに関する研究

主任研究者 伊藤弘人 国立精神・神経センター 精神保健研究所

社会精神保健部 部長

研究要旨：研究の目的：医療場面や地域における自殺未遂者・遺族等へのケアに直接的に資する成果をあげるために、実態調査、ケアガイドラインの作成、および研修ツールの開発を行うことが本研究の目的である。研究方法：（１）遺族ケアについては、（１-１）遺族ケアガイドライン作成指針の開発、（１-２）研修プログラム・ツールの開発を、（２）総合病院に勤務する専門医の希死念慮者へのメッセージに関するテキスト・マイニング、（３）自殺未遂者ケアガイドライン作成指針の開発、（４）救急看護ケア支援方法の開発、および（５）身体疾患と自殺・精神疾患との関連に関する予備調査を実施した。研究結果：有識者との研究会議を重ねることで、（１-１）遺族ケアガイドライン作成指針および（１-２）研修プログラムを開発した。また研究効果評価尺度についても開発中である。（２）希死念慮者へのメッセージには、「自殺しない約束」などの５つのクラスターが確認された。（３）国内外の有識者へのヒアリング等を行い、自殺未遂者ケアガイドライン作成指針を開発した。（４）救急看護師が救命救急の場面で活用できるツールの開発を行い連携体制モデルの構築を試みた。（５）身体疾患と自殺・精神疾患には強い関連性があることを確認した。まとめ：本研究成果が、医療場面や地域で参考にされ、自殺未遂者・遺族等へのケアの向上に寄与することを期待する。なお、本研究により作成した自殺未遂者・遺族等へのケアガイドラインを作成するための指針は、厚生労働省の検討会へ報告した。

分担研究者氏名 所属施設名及び職名

川野健治 国立精神・神経センター精神保健研究所自殺予防総合対策センター 室長
(社会精神保健部室長兼任)
河西千秋 横浜市立大学医学部精神医学教室 准教授
有賀 徹 昭和大学医学部救急医学講座 教授

研究協力者氏名 所属施設名及び職名

明智龍男 名古屋市立大学大学院精神・認知・行動医学 准教授
張 賢徳 帝京大学溝口病院精神神経科 科長
伊藤敬雄 日本医科大学精神医学教室 講師
川島大輔 国立精神・神経センター精神保健研究所社会精神保健部 リサーチ・レジデント
小林未果 国立精神・神経センター 研究生
黒澤美枝 岩手県精神保健福祉センター 所長
松本俊彦 国立精神・神経センター精神保健研究所 自殺予防総合対策センター 室長
(精神保健計画部室長併任)
松島英介 東京医科歯科大学大学院心療・緩和医療学 准教授
三宅康史 昭和大学医学部救急医学講座 准教授
守村 洋 札幌市立大学看護学部 准教授
中村恵子 札幌市立大学看護学部 教授
佐伯俊成 広島大学大学院総合診療医学 准教授
佐藤玲子 横浜市立大学医学部精神医学教室 医師
佐藤 洋 大阪大学大学院循環器内科 講師
清水新二 奈良女子大学生活環境学部 教授
渡邊直樹 青森県立精神保健福祉センター 所長
山田朋樹 横浜市立大学附属市民総合医療センター高度救命救急センター 助教
(五十音順)

A. 研究目的

我が国では平成10年以来、年間自殺者が3万人を超えるという深刻な緊急事態に直面している。その状況を受け、2006年に自殺対策基本法が成立し、2007年に自殺総合対策大綱が発表された。自殺対策基本法の条文には、「自殺未遂者」「自殺者や自殺未遂者の親族等」に対する「適切な支援」の必要性が述べられている。また、自殺総合対策大綱の中には、「自殺未遂者、遺族の実態及び支援方策についての調査の推進」が掲げられ、「自殺未遂者の再度の自殺を防ぐ」、「遺された人の苦痛を和らげる」といった項で自殺未遂者、自殺者遺族への支援が重要な課題として位置づけられている。

すでに先行研究により、自殺未遂が強力な自殺の危険予測因子のひとつであることが明らかにされており (Moscicki, 1997; Isometsa et al, 1998; Owen et al, 2002)、自殺未遂者ケア・支援が自殺予防の重要な鍵となる。世界保健機関

(World Health Organization, WHO) は、このような考え方にに基づき、希死念慮をもつ個人への介入手法や自殺未遂者への標準的介入研究を提唱している (WHO-SUPRE : http://www.who.int/mental_health/prevention/suicide/suicideprevent/en/)。

他方、自殺者遺族等 (以後、自死遺族) は、親しい者を自殺によってなくし、悲嘆過程を経験する。そのプロセスは本来、個人差が大きいものである。しかし、残念ながらわが国には自殺に対するスティグマも強く、そのため、十分な悲嘆を経験し回復へと辿ることが阻害されている、という現状が当事者の側から指摘されてきた (あしなが育英会, 2002)。

また、自死遺族が正常な悲嘆の範囲を超えて、強い影響を受けることも、これまでいくつかの実証データから指摘されている。病理的な悲嘆反応とされている複雑性悲嘆がみられる場合は、そうでない自死遺族の5~10倍程度の自殺念慮

の高まりがあることが報告されている (Mitchell et al, 2004; Mitchell et al, 2005)。自殺歴のある家族の自殺率は、ない家族の二倍である (Szanto et al, 2005)。病的な悲嘆が気分障害や外傷性ストレス障害につながる危険性があるとされている (張・北島, 2003; Zhang, Tong & Zhou, 2005)。

しかし、現実には医療場面や地域で、自殺未遂者・自殺者親族へのケアは十分に実施されているとは言いがたい。その背景には、これらの問題に対応するための知識・動機・体制が現場で不足している可能性がある。また、その実態も十分に把握されていない。

そこで本研究では、自殺未遂者・自殺者親族等へのケアについて現状の整理と課題に抽出に取り組んだ平成 18 年研究の成果を受け、各現場での実態を明らかにするためのいくつかの実態調査を実施した。

その中には、救命救急センターでの実態調査、自殺者親族の実態調査、希死念慮をもつ患者への言葉がけについての調査、救命救急センターで働く看護師の意見集約が含まれる。さらに医療と自殺との関係性を掘り下げる意味から、自殺の原因として第一位を占める健康問題について、既存の知見を整理した。

これらの作業と並行して、実際にケアが現場で推進されるためのモデル・ツールとして、自殺未遂者ケアのためのガイドラインや自殺者親族へのケアガイドライン作成、研修ツール作りに着手した。

B. 研究方法

1. 遺族ケアについて

1) 自死遺族ケアガイドライン作成のための指針の作成

厚生労働省の下に設けられた、「自殺未遂者・自殺者親族等のケアに関する検討会」とも連動して、自死遺族ケアガイドラインの作成に着手した。各現場の状況に応じた複数のガイドラインを作成することが現実的であると考えられたため、今年度はガイドラインそのものではなく、自死遺族ケアガイドライン作成のための指針を作成した。具体的には以下の 4 つの作業を含む。

- (1) ガイドライン作成にあたって、自死遺族自身のケアニーズについて実態調査を行った
- (2) 国外海外の既存のガイドラインの検討を行った。
- (3) 自死遺族支援を専門とする精神科医にヒアリングを行った上で、地域の自殺対策担当者向けのガイドライン案を作成した。
- (4) 上記ガイドライン案に対して、精神科医、保健師、遺族支援グループスタッフ当事者の意見を聴取した上で、ガイドライン作成の指針を作成した。

2) 研修プログラム・ツールの開発

昨年度、当研究班で自死遺族支援研修を実施した実績をもとに、本年度は自殺念慮者（未遂者を含む）・自死遺族支援のための「自殺対策相談支援研修」のプログラムと、そこで用いる研修ツールを開発した。

- (1) 専門家に依頼し、研修教材としてのスライドを作成した。
- (2) 研修効果を評価するために、米国で作成された SIRI-2 の日本語版を作成した。
- (3) 精神科医、保健師、遺族支援グループスタッフ、当事者に対してヒアリングを行った。
- (4) 研修プログラムの実施と評価を行った

2. 希死念慮者へのメッセージに関する研究

1) アンケート調査

精神科病床を有する 1600 病院のうち無作為に抽出した約 500 病院に対し、希死念慮者へのメッセージの内容調査を依頼した。302 名（内科 70 名、救急診療科 75 名、精神科神経科 155 名）からの回答を得た。

3. 自殺未遂者ケアのためのガイドライン指針の作成

1) 都市部の高度救命救急センターにおける自殺未遂者の人口疫学統計データをまとめるとともに、これらの患者の救命救急センター退院後の精神科受療率と予後調査の結果の一部をまとめた。

2) 海外の自殺未遂者・自殺念慮をもつ人へのケアのガイドライン等の調査

3) ガイドライン指針（案）の初稿の作成とヒアリング、改訂版の作成

4) ガイドライン指針（案）改訂版の英文化と、これに対する海外の自殺予防対策専門家へのヒアリング

4. 救命救急センターにおける自殺対策支援の可能性に関する予備的研究

1) 救命救急センターに従事している認定看護師を中心とした専門家との意見交換を実施した。

2) 関東圏の救命救急センターの救急看護職者に対する「救急医療における自殺対策支援検討会」モデルを開発した。

5. 身体疾患と自殺および精神疾患に関する予備的検討

1) 先行研究の検索および有識者との意見交換により国内外の状況を把握した。

C. 研究結果

1. 遺族ケアについて

1) 遺族ケアガイドラインの作成

実態調査からは、遺族のサポート源が同時に二次被害の可能性をもつことが示され、遺族支援は対人関係レベルに応じた具体性で、また地域の資源を前提として取り組むべきであると考えられた。海外のガイドラインの調査を踏まえ、地域の自殺対策者向けのガイドライン案を作成し、専門家 2 名にヒアリングを行った。悲嘆過程だけではなく、社会生活など幅広く自死遺族の実態を踏まえた点を肯定的に評価した上で、それぞれ以下の重要な点を指摘した。

- ・ 相談体制の充実を強調すること（普及啓発などから始めても、必ず相談事例への掘り起こしに繋がる）
- ・ 民間団体などの活動について、慎重に記す必要があること（活動継続のためにも無理な活動にならないこと）
- ・ 自死遺族支援を通常精神保健福祉行政の枠組みに位置づけること（新たな業務として新しく負担となり、活動が滞ることを避ける意味で）
- ・ 精神障害をもった方が遺族となる可能性（これまでの業務の連続性）

上記ガイドライン案に対して、精神科医、保健師、遺族支援グループスタッフ当事者の意見を聴取した。作業の過程の中で、単一のガイドラインを作成することの困難が見出され、むしろ各地域が現場の実情にあわせてガイドライン作成に取り組むための、ガイドライン作成の指針が作成された。

2) 研修プログラム・ツールの開発

平成20年1月10日、11日に開催された、自殺予防総合対策センターで開催する「自殺対策相談支援研修」で使用する研修教材としてのスライドを作成した。この研修では、地域で自殺念慮者や自死遺族への相談について、人材育成も含めて自立的に展開することを支援する目的で、「研修を受けた参加者が地域で伝達講習を効率よく行える」ことを念頭においていた。したがって、「自殺対策相談支援研修」で使用する教材（のうち必要なもの）は、講義しやういことを前提に検討され、ファイルはCDに納め、全参加者に配布された。

研修効果を評価するために、米国で作成されたSIRI-2の日本語版を作成した上で、研修プログラムの実施と評価を行った。全体に好評であったが、「時間が短い」という指摘が多く、次年度以降の反省点として残った。また、SIRIからは、参加者が自殺相談において判断が明確になったことが示唆された。（SIRIについては、現在分析を続けている）。

2. 希死念慮者へのメッセージに関する研究

頻繁に用いられる言葉が同定され、また対応分析により「共感的理解と告白」、「精神科への相談」、「病気の診断と回復の見通し」、「自殺しない約束」、「生の価値と他者への配慮」の5つのクラスターが確認された。

3. 自殺未遂者ケアのためのガイドライン指針の作成

ガイドライン指針（案）の作成に際しては、高度救命救急センターにおける重症自殺未遂者の実態、国内外のさまざまな自殺予防のためのガイドラインや手引書等を参考にし、また、専門家や相談従事者からのヒアリングを行い、こ

のガイドライン指針（案）に反映させた。ガイドライン指針（案）は、英語版も作成した。

このガイドライン指針（案）で特に焦点を当てたのは、今後作成されるガイドラインのすべてが押えるべき要点として、相談従事者が自殺企図者ないしは自殺念慮をもつ人、そして自殺企図行動について理解すべき基本的な知識、そして従事者の取るべき態度と対応の基本であった。また、ガイドラインが効果的に活用されるための要素として、さまざまな領域での精神保健の促進について言及した。

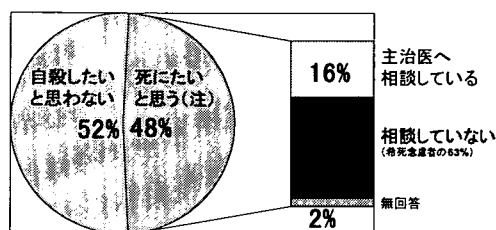
4. 救急看護における自殺対策支援に関する研究

救命救急センターに従事する看護職者のディレンマが研究動向および現場の声として明らかになった。精神保健領域の医療者との連携および協力が不可欠である。精神保健領域で培った知識、経験および技術を救命救急の場面で活用できるためには、これまで以上の連携および協力が喫緊の課題として明らかになった。

5. 身体疾患と自殺および精神疾患に関する予備的検討

腎透析患者や頭頸部がん患者など、身体疾患患者の自殺リスクは高く、がん患者の自殺率は一般人口の約1.8倍との報告があった。気分障害の外来患者の約半数に希死念慮があり、その約3分の1は希死念慮について主治医に相談していなかった（図1）。自殺に対する態度については、医学生の関心が最も低かった。さらに、身体疾患と精神疾患との関連については、がん、循環器疾患および糖尿病を中心に検討を行った。

図1. 希死念慮と主治医への相談
—気分障害の外来患者—



注:「死にたいと思う」(48%)は、「死にたいと思うことはあるが、自殺を実行しようとは思わない」(45.1%)、「自殺したいと思う」(2.5%)および「チャンスがあれば、自殺するつもりである」(0.8%)の合算である。

出典:小山達也,他,臨床精神医学,2007

D. 考察

自殺未遂者へのケア、自殺者親族等へのケアのためのガイドライン作成の指針を検討する過程で、それぞれ必ずガイドラインに含むべき項目が見出された。他方で、自死遺族へのケアはより具体的に、地域の実情に応じて整備すべきであることが改めて浮き彫りとなった。同様に、未遂者ケアガイドラインもまた、実情に応じた作成が必要とされた。

これらの作成過程で実態やヒアリングを行ったが、すでに欧米の先行研究で知られているように、自殺未遂者・自殺者遺族がハイリスク群であり、そのケアが必要であること、その支援はより具体的に状況・対象に応じて、今後検討されるべきであることなどが確認された。調査データの一部は未だ分析中であるが、今後の研究の基礎となるものと思われる。

一方、地域の人材育成を支援するため研修プログラム・ツールが開発された。直後の受講者のアンケートからは、一定の満足度が報告され、100名を超える地域の実務担当者が同様の講義を受け、また地域で伝達するツールを入手したことは、わが国の自殺対策にとっても大きな影響を与えるものと思われる。今後は、実際に地域で伝達研修が行われたかどうかなど、さらに

検討を加えることで、より効果のある研修となることが期待される。

メッセージ研究の成果は、自殺念慮者・希死念慮者へのケアの現場における医師の自殺予防に対する認識を省察する上での基礎的資料となることで、自殺対策に資するものである。

ただし実践的観点からすれば、今後は患者自身が医師とのコミュニケーションを通じてどのような取り決めを行っていくのかという相互の発達プロセスについても明らかにしていくことが必要である。

救急看護における自殺対策支援に関する研究からは、救命救急センターに従事する看護職者のディレンマが研究動向および現場の声として明らかになった。精神保健領域の医療者との連携および協力が不可欠である。精神保健領域で培った知識、経験および技術を救命救急の場面で活用できるためには、これまで以上の連携および協力が喫緊の課題として明らかになった。

最後に、身体疾患と自殺および精神疾患に関する予備的検討からは、身体疾患患者の自殺および精神疾患との結びつきは強く、優先順位の高い課題であることが確認された。

E. 結論

平成18年度の研究では、自殺未遂者ケア、自殺者遺族等へのケアの現状の整理と問題点の抽出がなされたが、今年度には、実際にケアが行われるための、いくつかの準備を整えることができた。すなわち、ガイドラインを作成するための準備であり、より効果的な研修が地域で展開するための準備である。また、関連する調査データも入手できた。

ただし、ガイドライン作成にしても、これらは、実行されてこそ意味がある。さらに分析・

検討をすすめ、より実効性のある知見へと精錬する必要があるだろう。

また、さらに重視すべき領域として、未遂者・その家族、さらに自殺者遺族への支援に関わる救命の看護師の役割、一般医療や救急場面での自殺に関わる問題について、あらたな知見を見出すことができた。自殺対策にとって重要な部分であることが明らかとなったため、今後さらに検討する必要があると考える。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- Doihara C, Kawanishi C, Yamada T, Sato R, Hasegawa H, Furuno T, Nakagawa M, Hirayasu Y: Trait aggression in suicide attempters: a pilot study. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, in press
- Kawanishi C, Iwashita S, Sugiyama N, Kawai M, Minami Y, Ohmichi H: Proposals for suicide prevention in general hospitals, *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, 61, 704, 2007
- Kawanishi C, Sato R, Yamada T, Ikeda H, Suda A, Hirayasu Y: Knowledge and attitudes of nurses, nursing students and psychiatric social workers concerning current suicide-related issues in Japan. *Primary Care Mental Health*, in press
- Yamada T, Kawanishi C, Hasegawa H, Sato R, Konishi A, Kato D, Furuno T, Kishida I, Odawara T, Sugiyama M, Hirayasu Y: Psychiatric assessment of suicide attempters in Japan: a pilot study at a critical emergency unit in an urban area. *BMC Psychiatry*, in press
- 一戸真子, 岩下覚, 釜英介, 河西千秋, 木ノ元直樹, 黒須真弓, 杉山直也, 堤谷政秀, 中間浩一, 西元晃, 南良武: 病院内における自殺予防提言. *患者安全推進ジャーナル*, 17, 6-10, 2007
- 河西千秋: 海外の自殺予防関連学会について: 学会参加のすすめ. *日本自殺予防学会 News Letter*, 16, 6-7, 2007
- 河西千秋 (訳・監訳), 平安良雄 (監訳): 自殺予防: プライマリ・ヘルスケア従事者のための手引き, 横浜市立大学精神医学教室刊, 横浜, 2007
- 河西千秋 (訳・監訳), 平安良雄 (監訳): 自殺予防: 教師と学校関係者のための手引き, 横浜市立大学精神医学教室刊, 横浜, 2007
- 河西千秋 (訳・監訳), 平安良雄 (監訳): 自殺予防: メディア関係者のための手引き, 横浜市立大学精神医学教室刊, 横浜, 2007
- 河西千秋 (訳・監訳), 平安良雄 (監訳): 自殺予防: プライマリ・ケア医のための手引き, 横浜市立大学精神医学教室刊, 横浜, 2007
- 河西千秋 (訳・監訳), 平安良雄 (監訳): 自殺予防: 職場のための自殺予防の手引き, 横浜市立大学精神医学教室刊, 横浜, 2007
- 河西千秋 (訳・監訳), 平安良雄 (監訳): 自殺予防: カウンセラーのための手引き, 横浜市立大学精神医学教室刊, 横浜, 2007
- 河西千秋 (訳・監訳), 平安良雄 (監訳): 刑務官のための手引き, 横浜市立大学精神医学教室刊, 横浜, 2007
- 河西千秋 (訳・監訳), 平安良雄 (監訳): 自殺予防: 遺された人たちのための自助グループの始めかた, 横浜市立大学精神医学教室刊,

- 横浜, 2007
- 河西千秋, 河合桃代, 西典子: 入院患者の自殺を防ぐために: 必要な知識と対応. 看護管理, 17, 858-865, 2007
- 河西千秋, 山田朋樹, 中川牧子: 救命救急センターを拠点とした自殺予防への取り組み. Depression Frontier, 5, 42-47, 2007
- 小山達也, 田島美幸, 他. 気分障害の患者における希死念慮と医師への相談. 臨床精神医学 36:1311-1314, 2007.
- 中川牧子, 河西千秋, 平安良雄: 自殺を防ぐために: いまできること, これから取り組むべきこと. 精神科看護, 34, 12 - 18, 2007
- 佐藤玲子, 河西千秋, 山田朋樹: 救命救急センターに搬送された自殺企図者のフォローアップ. 総合病院精神医学, 19, 35-45, 2007
- 杉山直也, 河西千秋: 精神科領域におけるリスクマネジメント: 財団法人日本医療機能評価機構・認定病院患者安全推進事業での取り組みから. こころを支える, 2, 8-11, 2007
- 山田朋樹, 河西千秋, 平安良雄: 高度救命救急センターにおけるコンサルテーション・リエゾン精神医療. 臨床精神医学, 36, 743 - 747, 2007
- 古野拓, 河西千秋: 自殺とマスメディア: 自殺報道における問題. 精神科, 10, 485-491, 2007
2. 学会発表
- Hirayasu Y, Odawara T, Sugiyama N, Kawanishi C, : Development of placebo controlled clinical trials for schizophrenia in Japan. World Psychiatric Association Regional Meeting, Seoul, 2007, 4
- Kawanishi C, Hirayasu Y, : Post-suicide attempt intervention for the prevention of further attempts: randomized controlled, multicenter trial in Japan (ACTION-J). World Psychiatric Association Regional Meeting, Seoul, 2007, 4
- Kawanishi C, Hirayasu Y, : Post-suicide attempt intervention for the prevention of further attempts: randomized controlled, multicenter trial in Japan (ACTION-J). 26th International Association for Suicide Prevention, Killarney, 2007, 8
- Kawashima, D., Koyama, T., Kawano, K., & Ito, H. An explanatory model of physicians for suicide prevention: analysis of physicians' statements made to suicidal patients. 29th International Congress of Psychology. Berlin, Germany. 2008, 7 (準備中)
- Sato R, Yamada T, Kawanishi C, Hasegawa H, Konishi A, Kato D, Furuno T, Kishida I, Odawara T, Sugiyama M, Hirayasu Y: Psychiatric assessment of suicide attempters at a critical emergency unit in urban city in Japan. World Psychiatric Association Regional Meeting, Seoul, 2007, 4
- Yamada T, Nakagawa M, Sato R, Konishi A, Kato D, Odawara T, Arata S, Sugiyama M, Hirayasu Y, Kawanishi C: Drug-overdose in suicide attempters at the emergency department in Japan: relationship to prescribing multiple drugs. 26th International Association for Suicide Prevention, Killarney, 2007, 8
- 長谷川花, 山田朋樹, 河西千秋, 中川牧子, 須田顕, 佐藤玲子, 岩本洋子, 加藤大慈, 杉山

- 直也, 小田原俊成, 平安良雄: 高度救命救急センターに搬送された自殺既遂者における遺族ケアの試み. 第 15 回日本精神科救急学会, 大宮, 2007, 9
- 岩本洋子, 山田朋樹, 中川牧子, 小田原俊成, 鈴木範行, 平安良雄, 河西千秋: 救命救急センターに入院した自殺企図患者の在院期間調査: 精神科医常勤化前後の比較. 第 20 回日本総合病院精神医学会, 札幌, 2007, 11
- 河西千秋 (シンポジウム): 自殺を防ごう 横浜から: もっと知りたい「うつ病」の話. 横浜市こころの相談センター・シンポジウム. 横浜, 2007, 1
- 河西千秋 (ランチョン・セミナー): 自殺のハイリスク者への介入: 救命救急センターを拠点にした自殺未遂者のケース・マネジメント. 第 31 回日本自殺予防学会総会, 川崎, 2007, 4
- 河西千秋 (シンポジウム): 自殺未遂者の今、そしてこれらのために為すべきこと. 第 29 回日本中毒学会総会, 東京, 2007, 7
- 河西千秋 (シンポジウム): 救命救急センターを拠点とした自殺予防活動、そして自殺対策のための戦略研究. 第 15 回日本精神科救急学会総会, 大宮, 2007, 9
- 河西千秋, 平安良雄, 有賀徹, 石塚直樹, 山田光彦, 米本直裕, 高橋清久 (シンポジウム): 自殺対策のための戦略研究: 自殺企図の再発防止法の開発のための他施設共同研究 ACTION-J. 第 103 回日本精神神経学会総会, 高知, 2007, 5
- 河西千秋, 山田朋樹, 佐藤玲子, 須田顕, 神庭功, 中川牧子, 岩本洋子, 加藤大慈, 後藤英司, 平安良雄: 医学教育における自殺予防教育. 第 4 回日本うつ病学会, 札幌, 2007, 6
- 川島大輔・川野健治 自殺危機介入のスキル尺度 (SIRI-2) の整備と実施, 自殺予防学会, 岩手, 2007, 4 (発表予定)
- 中川牧子, 山田朋樹, 河西千秋, 佐藤玲子, 長谷川花, 加藤大慈, 小田原俊成, 杉山貢, 平安良雄: 横浜市立大学高度救命救急センターに入院した重症自殺未遂者の基礎的データ. 第 31 回日本自殺予防学会総会, 川崎, 2007, 4
- 中川牧子, 山田朋樹, 山田素朋子, 名取みぎわ, 池田東香, 須田顕, 佐藤玲子, 長谷川花, 鈴木範行, 小田原俊成, 平安良雄, 河西千秋: 高度救命救急センターにおいて危機介入を実施した自殺未遂者の予後調査 (第 2 報), 日本総合病院精神医学会, 札幌, 2007, 11
- 須田顕, 佐藤玲子, 河西千秋, 山田朋樹, 中川牧子, 平安良雄: 救命救急センター研修医に対する自殺予防教育とその効果について. 第 81 回東京精神医学会, 東京, 2007, 10
- 須田顕, 山田朋樹, 佐藤玲子, 中川牧子, 長谷川花, 古野拓, 平安良雄, 河西千秋: 救命救急センター研修医の自殺者・自殺行動に対する知識と理解. 第 4 回日本うつ病学会, 札幌, 2007, 6

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

I. 参考・引用文献

- あしなが育英会 自殺って言えなかった サ
ンマーク出版, 2002
- 張賢徳・北島正人 自殺者遺族の悲嘆 その
特徴と求められるケアをめぐって. 生活教
育, 47, 42-48, 2003
- Isometsa ET, Lonnqvist JK: Suicide attempts

- preceding completed suicide. Br J Psychiatry, 173, 531-535, 1998
- Mitchell AM, Kim Y, Prigerson HG, Mortimer MK: Complicated grief and suicidal ideation in adult survivors of suicide. Suicide Life Threat Behav, 35(5), 498-506, 2005
- Mitchell AM, Kim Y, Prigerson HG, Mortimer-Stephens M: Complicated grief in survivors of suicide. Crisis, 25(1), 12-8, 2004
- Moscicki EK: Identification of suicide risk factors using epidemiologic studies. Psychiatr Clin North Am, 20, 499-517, 1997
- Owens D, Horrocks J, House A: Fatal and non-fatal repetition of self-harm: systemic review. Br J Psychiatry, 181, 193-199, 2002
- Szanto K, Prigerson H, Houck P, Ehrenpreis L, Reynolds CF 3rd: Suicidal ideation in elderly bereaved: the role of complicated grief. Suicide Life Threat Behav, 27(2), 194-207, 1997
- World Health Organization: Suicide prevention (SUPRE): http://www.who.int/mental_health/prevention/suicide/suicideprevent/en/
- Zhang J, Tong H Q, Zhou L: The effect of bereavement due to suicide on survivors' depression: A study of Chinese samples. Omega, 51, 217-227, 2005

資料1 自殺未遂者ケアに関する研究会議参加者（2007年9月14日開催）

（参加者）

本間 正人 国立病院災害医療センター救命救急センター 部長
川島 大輔 国立精神・神経センター精神保健研究所社会精神保健部 リサーチ・レジデント
小山 達也 東京女子医科大学看護学部 助教
松本 俊彦 国立精神・神経センター精神保健研究所自殺予防総合対策センター 室長
(精神保健計画部室長併任)
名取みぎわ 横浜市立大学精神医学教室
西 典子 横浜市立大学医学部看護学科 助教
大高 明子 千葉県救急医療センター 副看護師長・救急看護認定看護師
大塚耕太郎 岩手医科大学神経精神科学講座 講師
佐藤 玲子 横浜市立大学精神医学教室
佐原まち子 東京医科歯科大学医学部附属病院医療福祉支援センター 主任・ソーシャルワーカー
山田素朋子 横浜市立大学精神医学教室
山田 朋樹 横浜市立大学附属市民総合医療センター高度救命救急センター 助教
安田 美佳 北里大学病院 看護主任・救急看護認定看護師
吉田 葉子 救急看護認定看護師

（分担研究者）

川野 健治 国立精神・神経センター精神保健研究所自殺予防総合対策センター 室長
(社会精神保健部室長併任)
河西 千秋 横浜市立大学医学部精神医学教室 准教授

（主任研究者）

伊藤 弘人 国立精神・神経センター精神保健研究所社会精神保健部 部長

資料2 自殺対策相談支援研修に関する研究班会議参加者（2007年10月18日、19日開催）

（来賓）

森川 博司 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部 係長

（メンバー一覧）

明田久美子 川崎市健康福祉局精神保健課 主査

藤井 忠幸 自死遺族ケア団体全国ネット 事務局長

福岡 麻実 藤沢市保健所保健予防課 主任

波田野房枝 相模原市保健所保健予防課 保健師

平山 正実 聖学院大学大学院人間福祉学研究科 教授

稲垣 正俊 国立精神・神経センター精神保健研究所自殺予防総合対策センター 室長

（老人精神保健部室長併任）

川島 大輔 国立精神・神経センター精神保健研究所社会精神保健部 リサーチ・レジデント

小山 達也 東京女子医科大学看護学部 助教

熊切真奈美 川崎市精神保健福祉センター診療相談担当 主査

黒澤 美枝 岩手県精神保健福祉センター 所長

松本 俊彦 国立精神・神経センター精神保健研究所自殺予防総合対策センター 室長

（精神保健計画部室長併任）

西田 正弘 あしなが育英会 課長

大野 絵美 あんだんて 代表

清水 新二 奈良女子大学生生活環境学部 教授

田村 毅 東京学芸大学総合教育科学系生活科学講座 教授

田代 雅美 青い空の会 代表

渡邊 直樹 青森県立精神保健福祉センター 所長

（分担研究者）

川野 健治 国立精神・神経センター精神保健研究所自殺予防総合対策センター 室長

（社会精神保健部室長併任）

河西 千秋 横浜市立大学医学部精神医学教室 准教授

（主任研究者）

伊藤 弘人 国立精神・神経センター精神保健研究所社会精神保健部 部長

資料3 救急看護における自殺対策支援研究班参加者（2007年11月1日開催）

（参加者）

川島 大輔 国立精神・神経センター精神保健研究所社会精神保健部 リサーチ・レジデント

守村 洋 札幌市立大学看護学部 准教授

大高 明子 千葉県救急医療センター 副看護師長・救急看護認定看護師

安田 美佳 北里大学病院 看護主任・救急看護認定看護師

吉田 葉子 救急看護認定看護師

（分担研究者）

川野 健治 国立精神・神経センター精神保健研究所自殺予防総合対策センター 室長

（社会精神保健部室長併任）

（主任研究者）

伊藤 弘人 国立精神・神経センター精神保健研究所社会精神保健部 部長

資料4 救急看護における自殺対策支援研究班参加者（2007年12月14日開催）

（参加者）

川島 大輔 国立精神・神経センター精神保健研究所社会精神保健部 リサーチ・レジデント
西 典子 横浜市立大学医学部看護学科 助教
大高 明子 千葉県救急医療センター 副看護師長・救急看護認定看護師
竹内ひとみ 北海道大学医学部附属病院 ICU・救急部ナースセンター 副看護師長
山田 朋樹 横浜市立大学附属市民総合医療センター高度救命救急センター 助教
安田 美佳 北里大学病院 看護主任・救急看護認定看護師
吉田 葉子 救急看護認定看護師

（分担研究者）

川野 健治 国立精神・神経センター精神保健研究所自殺予防総合対策センター 室長
（社会精神保健部室長併任）

（主任研究者）

伊藤 弘人 国立精神・神経センター精神保健研究所社会精神保健部 部長

資料5 第1回 自殺対策相談支援研修 講師（2008年1月10日、11日開催）

（講師）

- 張 賢徳 帝京大学溝口病院精神神経科 科長
藤井 忠幸 自死遺族ケア団体全国ネット 事務局長
平山 正実 聖学院大学大学院人間福祉学研究科 教授
小山 達也 東京女子医科大学看護学部 助教
黒澤 美枝 岩手県精神保健福祉センター 所長
松本 俊彦 国立精神・神経センター精神保健研究所自殺予防総合対策センター 室長
(精神保健計画部室長併任)
西田 正弘 あしなが育英会 課長
清水 新二 奈良女子大学生生活環境学部 教授
田村 毅 東京学芸大学総合教育科学系生活科学講座 教授
渡邊 直樹 青森県立精神保健福祉センター 所長

（分担研究者）

- 川野 健治 国立精神・神経センター精神保健研究所自殺予防総合対策センター 室長
(社会精神保健部室長併任)
河西 千秋 横浜市立大学医学部精神医学教室 准教授

（主任研究者）

- 伊藤 弘人 国立精神・神経センター精神保健研究所社会精神保健部 部長

資料6 救急医療における自殺対策支援検討会（2008年2月8日開催）

（メンバー）

三宅 康史 昭和大学医学部救急医学講座 准教授
守村 洋 札幌市立大学看護学部 准教授
中村 恵子 札幌市立大学 看護学部看護学科 教授
西 典子 横浜市立大学 医学部看護学科 助教
大高 明子 千葉県救急医療センター 副看護師長・救急看護認定看護師
竹内ひとみ 北海道大学医学部附属病院 ICU・救急部ナースセンター 副看護師長
山田 朋樹 横浜市立大学附属市民総合医療センター 高度救命救急センター 助教
安田 美佳 北里大学病院 看護主任・救急看護認定看護師
吉田 葉子 救急看護認定看護師

（分担研究者）

有賀 徹 昭和大学医学部救急医学講座 教授
河西 千秋 横浜市立大学 医学部精神医学教室 准教授

（主任研究者）

伊藤 弘人 国立精神・神経センター精神保健研究所社会精神保健部 部長